

健康調査を実施して

魚津市農業協同組合

生活指導員

暮らしの主体者である主婦の農外就労の増加のなかで、農家生活に物質的なうおいや、主婦の位置づけなどが確立されてきた反面過重労働による健康障害や、家事作業の粗放化、精神的ゆとりの欠除などの問題が大きくクローズアップされている。

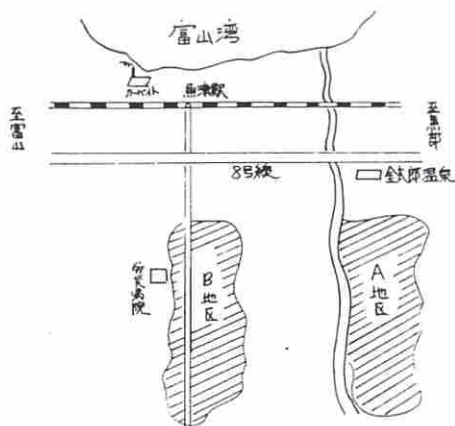
自分の健康をかえりみることができないほど忙しい農村婦人の健康を守ろうということの手始めとして、貧血検査と貧血を防ぐための食事の改善などの行事を実施して来た。

その経過をまとめ、今後健康で豊かな農家生活への推進方向を考えてみたい。

ねらい

私達の生活をより健康的なものにするため調査、学習会を実施して健康に対する知識ならびに、生活技術の向上をはかる。

対象



A・B地区の農家主婦
(A地区、B地区)

実施内容

- 5月・各自の健康状態を知るために、厚生連の協力を得て、血液比重、血色素検査及び生活状況のききとり調査
- 7月・貧血の要因とその対策
 - ・貧血予防食の実習
 - ・私達の地区から貧血を追放するための申しあわせ趣旨徹底のためリーフレットを全戸に配布。
- 8月・忙しい時の食事ごしらえと材料の共同購入について話し合い、また貧血食の実習とレバーの共同購入の実際についての検討会。
- 9月・貧血対策を戸別に訴え、事業推進状況を把握するためのアンケートを実施し、各家庭の状況を確認する。
- 11月 2回目の貧血検査を実施し、各自の健康状態を知る。
- 12月・おたよりの配布により、主婦の役割とグループによる集合学習の大切さを認識してもらう。

活動の評価

この活動のねらいを達成するための第一に健康に対する意識を高めてもらうことを考え、その方法として貧血検査をとりあげた。

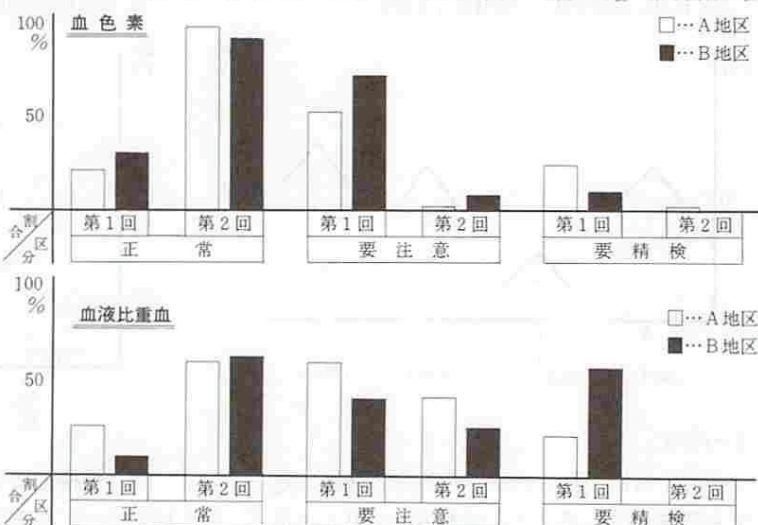
自分で健康だと自信のある農家の主婦 179名を対象にA、B地区で5月末日の2日間に

わたって検査が行われた。その結果、当初に予想した以上にいろいろの問題を投げかけることになり、まずそれぞれの地元での農協婦人部、婦人会の役員が中心となって、貧血追放対策が検討されることになった。

2回目の貧血検査を実施したところ、第1、第2表にみられるとおりの結果をあげることが出来た。なかには調査結果を持って病院へ行ったところ、成人病の早期発見に関連することなどでご本人に大変喜ばれたこともあった。しかし2回目の受検者の状況を見ると2回とも受診率は33%で残りの67%の人達の状況をもっと追跡してみないと、今回の活動の本当の意味が云々できないのではないかと考えられる。2回目受検できなかった人の第1回貧血検査結果(第3表)をみると、要注意、要精

第1表 検査結果

受検者(A地区=91名 第2回目36名)(B地区=88名 第2回目37名)

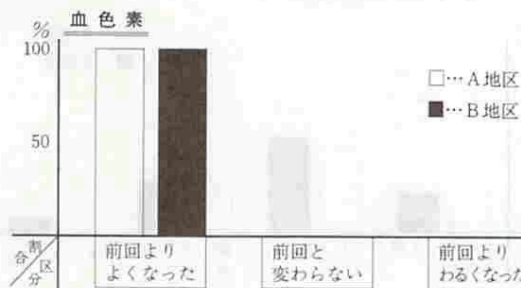


検を含めて約70%の人が問題になっている人達です。2回目を受検しなかった理由を確認して、健康診断と指導の効果をあげられるよう努力しなければならないように思われた。

また調査時期の問題で5月末に悪くて、11月末によくなった原因はまだ他にないのだろうかということも考え合わせたいこと

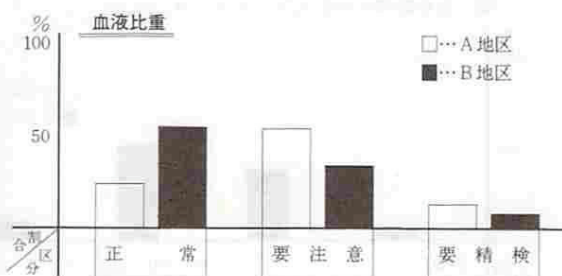
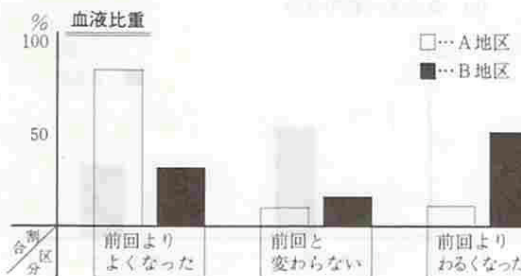
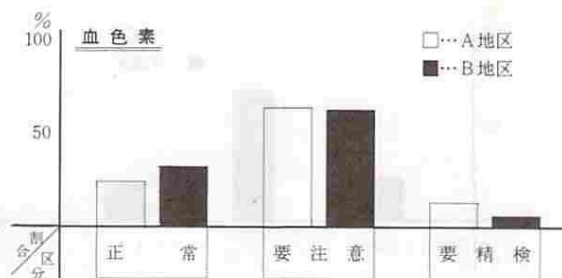
第2表 血液検査前回と比較して

(2回目受検した人 A地区28名 B地区31名)

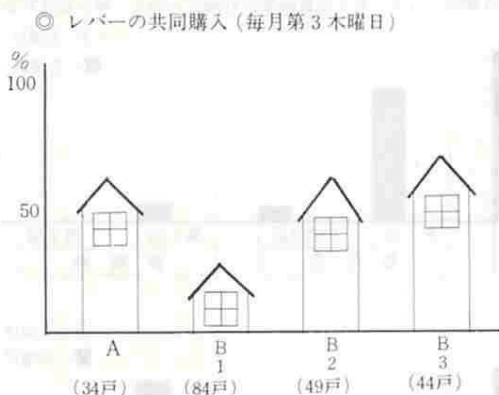


第3表 第二回目を受検しなかった人の状況

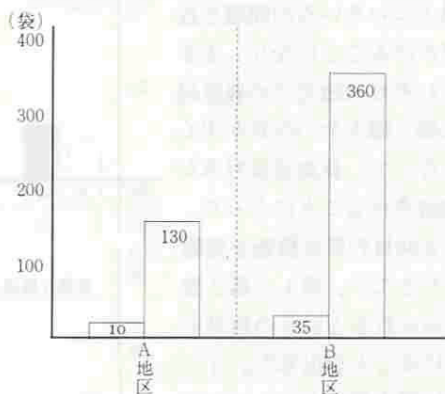
(A地区 63人 B地区 57人)



第4表 レバー・強化米の利用状況



◎ 強化米の利用状況



とつです。

一方、当初のねらいだった人達の健康に対する認識状況に関しては図表第4、第5に示されるとおりかなり積極性が見られたので、この活動の効果のひとつが示されたのではなかろうか。

今後の問題

(1) 貧血調査結果の要注意、要精検の人の追せきと関係医療機関との連携の問題。

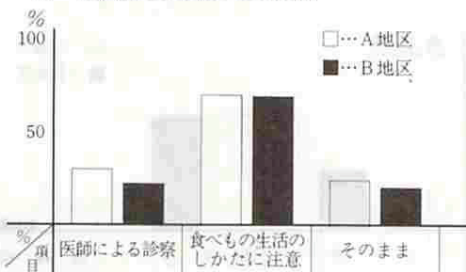
(2) 受検しにくい状況の人（日稼ぎ、農閑期のパートなど）をどうしたらよいのだろうか。

(3) それぞれの地区における問題解決推進母体の再編成。

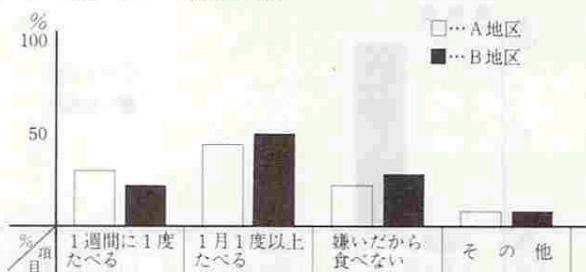
(4) A、B地区活動のアフターケアと周辺への波及方法。

第5表 生活状況調査（11月21日 第2回貧血調査に併せて実施 A地区36名 B地区37名）

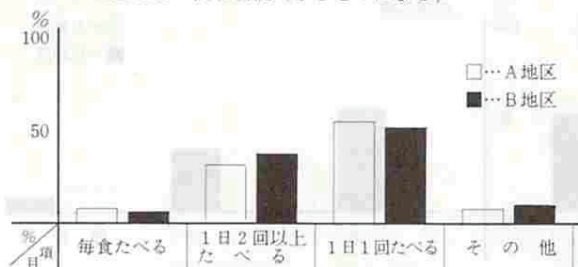
(1) 貧血検査受検後の処理状況



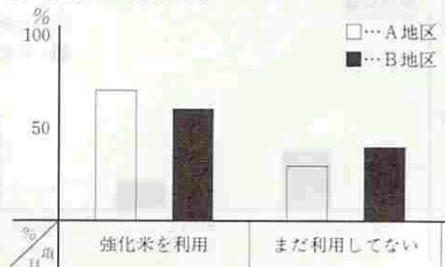
(3) レバーの摂取状況



(2) 有色野菜の摂取状況（ききとりによる）



(4) 強化米の利用状況



(3)